

特定非営利活動法人
大きな手小さな手

事業のご案内



- ・お問い合わせ先
- ・* どやま型デイサービス * 大きな手小さな手 *
- 住所 〒931-8333 富山県富山市蓮町2丁目9番8号
- 電話 & ファックス 076-471-5223

誇りと生きがいをもって活き活きと暮らす。
高齢聴覚障害者の特性やニーズに合ったサービスを。
ろう(聾)のお年寄りからろう児へと引き継がれる「手話」や「文化」。

◎設立趣旨◎

現在70歳以上のろう者(主に手話でコミュニケーションをする聴覚障害者)は、その教育課程において読み書きを十分に習得できなかったり、教育を受けられず、言葉や文字を理解できない方もいます。

高齢化社会を見据え、将来の高齢ろう者の介護を案じ、平成11年に「ろう者の高齢化問題を考えるための実態調査」を実施。この調査から「意思疎通がスムーズにできる人に介護をしてほしい」との声が多く、これを機にろう者のホームヘルパー育成に取り組みました。平成19年、「富山県高齢ろうあ者に関する調査」において、富山市在住の60歳以上のろう者を対象に、面談による聞き取り調査を実施。この結果、障害ゆえに情報入手が十分でなかったり、制度や福祉サービスについても理解できていない状況が見えてきました。

近年、聴覚障害者への配慮ある介護施設が、全国的に増えてきておりますが、富山においては資金面運営面においても実現するには至っていない状況です。

富山だからこそできる支援といえば、「とやま型デイサービス」です。介護保険サービスの提供は65歳以上の高齢者が対象ですが、年齢に関わらず聴覚障害児者が集う場を提供。デイサービスでは障害に配慮した設備、個々の特性やコミュニケーション手段に理解のある職員を配置します。また、作業所を設け、軽度の作業を提供することにより、能力や機能の保持、向上を目指すとともに、集える場としての機能を持たせ、不足しがちな情報の補完の一助となります。聴覚障害児にとっては、同じ障害を持つ人たちと世代を超えて交流をもつことで、アイデンティティの確立や将来へのロールモデルとなりうるでしょう。ろう者が手話で話す姿を見たり接することで、地域住民の方に手話や聴覚障害についての理解が広まることも期待されます。

日頃から地域社会において、近隣の方々との関わりも薄く、コミュニケーションをとることもできずに孤立している状況が軽減され、手話で自由にコミュニケーションできる場があることで、心のやすらぎが得られ、それが生きるよろこびにもつながると確信しています。

「大きな手小さな手」では、自由に手話で会話できる空間、それぞれの聴覚障害に合わせた方法で、コミュニケーションを楽しんでいただきたい、誇りと生きがいを持って暮らしていただきたい、その実現のために事業を展開していきます。

代表理事 金川 宏美

理事 橘 勇一 針山 和雄
毎熊 由紀 村田 稔

私たち
待ち望んで
いました..



～お茶を詰める作業をしています～

谷口 玲子さん

高齢になっても仕事ができることが嬉しいです。休憩の時間に、みんなでおしゃべりを楽しんでいます。体が不自由で外出できない仲間のことが心配です。聞こえる人が集まるデイサービスでは、伝えることが難しく、遠慮してしまいます。手話で自由に話ができる場所で、楽しい時間を過ごしたいです。

「大きな手小さな手」では6つの事業を行います



1. 居宅サービス事業（通所介護）
2. 障害福祉サービス事業（自立支援給付）



要支援・要介護者、障害者を対象に、我が家と同じような生活（食事、入浴など）をしていただけるよう利用者に合った支援をします。また聴覚障害者の特性を十分に理解し手話のできるスタッフを配置し、一人一人のニーズに合ったサービスを提供します。聴覚障害者が視覚で情報を得られる設備を整えました。地域社会に馴染めない高齢ろう者が、地域の皆さんと、交流や助け合いの中で心を開き、安らかな時を共有できる家を作ります。

3. 障害児通所支援事業（放課後デイサービス）

富山聴覚総合支援学校に通うお子さんを放課後にお預かりし、親御さんの負担やお仕事への影響を軽減します。また、聞こえる親と暮らす家庭環境にある聴覚障害児にとって、手話コミュニティは、手話を獲得するには最適な場所となり、同じ障害を持つ様々な年代の人との会話の中で、豊かな手話、ろう文化が引き継がれていきます。

4. 居宅介護支援事業（平成27年度実施予定）

要支援・要介護者的心身の状況や生活環境をもとに適切なサービスを提供できるようケープランを作成します。コミュニケーションの問題や情報の不足などにより介護保険制度を利用できていないろう者の掘り起こし、制度利用に繋ぐことを支援します。

5. 障害者のための作業訓練（平成25年6月～大町作業所にて）

元気な高齢のろう者や働く機会を得られない他の障害を併せ持つ聴覚障害者が、手話コミュニティの中で生きがいを持てるように、軽度の作業を提供します。毎日集うことにより情報が得られ、また体調管理・介護予防などにも役立ちます。



6. ボランティア事業（実施予定）

住み慣れた家で暮らす中にも生じるちょっとした不便。「電球を取り替えたいけど手が届かない」「買い物に行きたいけど重いものが運べない」等の作業や、「回覧板や郵便物の内容がわからない」「どこで手続きして良いかわからない」等の相談事を、お手伝いします。

私たちも「大きな手小さな手」を応援しています！

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

理事長 石倉義則

私たちはこれまで、手話通訳の制度化（養成・認定・派遣・設置）をはじめ、テレビ番組など情報の文字化の実現に努めてきました。私たち聴覚障害者が暮らしやすく、そして多くの皆さんとふれ合える社会の実現のためにです。幸い多くの皆さんの理解をもとに、着実に成果をあげてきました。今ひとつ、残された問題が「ろう者・聴覚障害者」の老後の問題です。一人暮らしの方も増えており、通常の施設では馴染めず、同じ障害を持つ仲間同士が集まる施設が望まれています。この「大きな手小さな手」へは大きな期待が寄せられています。ぜひ、皆さんのご援助・ご協力をお願いいたします。

学校法人浦山学園 富山福祉短期大学
社会福祉学科 教授 鷹西恒（たかにし ひさし）

このたびは特定非営利活動法人「大きな手小さな手」を設立される運びとなられましたこと、心より応援したいと思います。富山県聴覚障害者の医療を考える会の取り組みの中で、平成19年にろう者の高齢化問題を考えるための実態調査にて浮き彫りになった介護や医療、保健の諸課題と、それらに必要な専門的介助が望まれていることは存じております。そして今回、どやま型デイサービスをはじめ、障がい児通所支援事業や作業訓練所等の機能を備えた事業所をつくりたいという願いがようやく実現に向かっていると感じます。また、このことはもはや社会的ニーズのひとつであるともいえます。

「もし十分な時間をかければ、望んでいることはすべて実現できる」 We can do anything we want as long as we stick to it long enough

これは「ヘレン・ケラー Helen Keller (1880-1968)」の言葉です。彼女は重い障害を背負いながらも、世界各地を歴訪し、身体障害者の教育・福祉に尽力しました。この言葉を信じて市民のみなさまと共に夢を実現に導きましょう。

～運営資金にご協力をお願いします～

■正会員 入会金（初回のみ）10,000円
年会費（団体）5,000円（個人）2,000円

※正会員は総会における議決権を持ちます

■賛助会員 年会費（団体・個人）1,000円

※賛助会員は入会金不要です

■寄付によるご支援もお願いしております

振込先 ゆうちょ銀行

口座記号番号 00780-5-69254

加入者名 特定非営利活動法人大きな手小さな手

または下記の担当委員にお渡し下さい

折田直子 加藤昌代 金川宏美 刑部郁子 橘勇一
針山和雄 每熊由紀 水木由美子 村田稔 山崎清之

富山市聴啞福祉協会 会長 小中栄一

「大きな手小さな手」の取り組みに期待

ろう者が高齢になつたら、その生活はどうなるのか、どのような支援が必要なのか。数年前から問題提起がありました。実際に取り組んでいくことはなかなかできませんでした。いつの間にか姿を見せなくなつた先輩達も増えています。そんなときに、NPO法人「大きな手小さな手」が立ち上りましたことに深く敬意を表したいと思います。富山市聴啞福祉協会は理事会で正会員として加わりともに取り組んでいくことを決めました。私たちろう者は、手話で話し合える仲間が必要であり、大切です。高齢になると孤立しやすいのですが、ろう高齢者は家族からも孤立しがちです。手話で話し合える仲間との集いの場、手話で支え合える場づくりを富山にも作らなければなりません。富山市聴啞福祉協会も頑張ります。皆さんも一緒に取り組みましょう。よろしくお願ひします。

富山県手話通訳問題研究会 会長 新船洋平

子どもが聞こえなくても、安心して育てられる。大人になつたら、自立して暮らすことができる。聞こえなくても、安心して歳を重ね、老いることができる。そんな当たり前のことが、「聞こえない」というだけで出来ないということは残念なことです。個人の悩みではなく、地域の問題、社会の課題として、富山らしい形で解決していく。「大きな手小さな手」さんの事業は、制度の谷間を埋め、住みよい地域、よりよい社会を築くための一翼を担うでしょう。あなたの小さな想いが大きな後押しとなります。ぜひ、一緒に応援しましょう。

富山県聴覚障害者の医療を考える会

介護グループ代表 水木由美子

「大きな手小さな手」が法人設立の運びとなられましたこと、私たち富山県聴覚障害者の医療を考える会介護グループ一同、心から嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちはかねてより、高齢ろう者がコミュニケーションの困難により孤立することなく安心して集まる場作りを目指して、手話通訳者や聞こえるメンバーの協力のもと、ろう者自身がヘルパー資格を取得し介護について学び、ミニディイや、ろう児と高齢ろう者との交流を企画実行し活動してきました。聴こえない障害を持っていても、聴こえる人と同じように、安心して社会の中で老後の暮らしができるように…。「大きな手小さな手」その言葉のとおりに、高齢ろうあ者からろう児まで、楽しく微笑ましく手で語り合う姿が当たり前に見られるようになり、地域の一員として素敵なかな笑顔がきらきら輝き続けることを願い、事業のスタートを心から応援します。